未来を拓く　あなたの力を教育現場で活かしてみませんか

～新潟市教育委員会表彰　受賞者からのメッセージ～

令和８年１０月１日（木）新潟市教育委員会表彰式を行いました。

表彰された皆さんから、これまでの経験を踏まえて、学校園で働くことの魅力ややりがいを語っていただきました。



日々挑戦の醍醐味

教師の醍醐味、それは授業をすることです。子どもが前のめりに学ぶ姿を思い描き、授業準備をします。準備万端で授業をする日は、朝からワクワクします。授業を始めると、子どもが思うような反応を示さないこともあります。そんな時は、その場で軌道修正。またある時は、自分の予想を超えた学びの姿を見せてくれることもあります。一度として同じ授業にはなりません。自分で自分の授業を超えていく。日々挑戦し続けることは、楽しいです。

（小学校教諭）

「大変なことより素敵なこと」

「凛としたたずむ優しく、強い先生」それが私が憧れた小学校１年生の時の先生です。迷いなく教職に就き、先生という仕事を天職と信じて働いてきました。大変なこともたくさんあります。でもそれ以上に、素敵な瞬間に出会うことがたくさんあります。教える仕事ですが、子どもたちから学ぶことが本当にたくさんあります。優しく、強い先生に近づきたいなと日々奮闘中です。先生という仕事はとても魅力あふれる素敵な仕事です。

（小学校教諭）

一人一人の成長に寄り添う喜び

私は、誰もが安心してのびのびと過ごせる環境づくりを大切にし、子どもたちとじっくりと向き合ってきました。悩むこともたくさんありますが、試行錯誤を重ねる中で子どもたちの成長を感じられたときに、大きな喜びとやりがいを感じます。笑顔や素直な心に私自身もたくさん元気をもらい、ともに歩み、ともに笑い合える毎日がとても楽しく、この仕事の魅力だと感じています。（小学校教諭）

自ら学び続けること

子どもの心に火をつける瞬間に立ち会えること。そこに、教師という仕事の大きなやりがいがあります。時には人間らしく心で寄り添い、時には科学的根拠に基づいて指導する。その両立のために自ら学び続けることこそが、教師自身の人生をも豊かにしてくれます。絶えず学び、子どもたちと共に成長できる喜びを、ぜひ教育現場で味わってください。（小学校教諭）

何でもできなくて大丈夫

「のろまでいい、下手でいい、一生懸命がよい」。若手の頃、尊敬する先輩の先生からいただいた言葉です。教員を目指す皆さんにも、この言葉を贈ります。初めから何でもできなくて大丈夫。子どもの声に耳を傾け、一緒に悩み、工夫する。そして「分かった！」「できた！」をともに喜ぶ。子どもと向き合い、自分も学び続け、成長していけることが、この仕事の一番の魅力だと思います。その喜びを一緒に味わってみませんか。（小学校教諭）

「子どもたちの成長と輝く笑顔」

教員という仕事の最大の魅力は、子どもたちの成長を誰よりも近くで見守ることができる喜びです。昨日までできなかったことができるようになる瞬間、困難を乗り越えたときの達成感に満ちた表情、そして何より輝く笑顔。その一つ一つが原動力です。子どもたちと共に悩み、喜び、成長できる毎日は、何にも代えがたい宝物です。この喜びこそが、教員という仕事の素晴らしさだと感じています。（中学校教諭）

当たり前のことを当たり前に

多くの子どもたちと向き合う中で、「当たり前のことを当たり前に」行うことの大切さと難しさを日々実感しています。教育現場には正解がなく悩みも尽きませんが、地道な実践が実を結び、生徒たちの確かな成長を間近で見届けられたときの喜びは格別です。生徒たちに誠実に向き合う中で、自分自身も人間として日々磨かれ、共に成長し続けられることがこの仕事の大きな魅力だと考えています。（中学校教諭）

教え子たちに与えられるもの

教師になって 39 年目、ずっと「目の前の生徒にどう関わるか」それだけでした。

先日、以前勤めた学校の教え子で 30 歳になった 4 人が、突然 15 年ぶりに連絡をくれました。中学校時代はいろいろなことがあり、何度も衝突しました。1 日かけて村上の寺に座禅を組みに行ったことも・・・。一緒に食事をしていると 15 年前のできごとがどんどん蘇ってきます。「先生は学級担任ではなかったけど、俺たちの先生だった。だから今頑張れている。」15 年後に答えが返ってきました。（中学校教諭）

学校という職場は…

学校には変わらない日常の中に、実はドラマチックなシーンや場面がたくさんあります。そんな場面に関わることができるのが、教師という仕事です。生徒と出会い、生徒との関わりの中で生まれる喜びや楽しみ、また多くの人たちとのつながりや縁、そして別れは自分自身の人生をとても豊かにしてくれます。

私はこんな醍醐味とやりがいに溢れた中学校で仕事ができて、本当によかったと思っています。（中学校教諭）

変化を恐れず

盲学校、中学校、特別支援学校、高等学校と、いろいろな学校で働かせていただきました。「教師」という仕事は、さまざまな経験ができるところが魅力だと思います。

同じ学校、同じ学年でも、生徒が違えばやり方を変えなければ通用しないこともあります。変化を恐れず、日々成長していけるところも魅力の一つと考えます。

たくさんの生徒、先生方、職員の皆さん、保護者の方、地域の方との出会いに感謝しています。（高等学校教諭）

安心と信頼

子どもたちが元気に生き生きとした表情で活動している姿を見ると自分も元気になり、幸せな気持ちになります。この仕事を選んで良かったと思う瞬間です。学校では大きなけがや事故がない 1 日は何よりですが、命に関わる仕事ですから緊急時には専門職として的確な判断と丁寧な対応が求められる責任ある仕事でもあります。「何かあっても保健室にこの先生がいるなら安心！」と子どもたちや職員、保護者から信頼されるような養護教諭を目指してほしいです。（中学校養護教諭）

子どもたちの心と体を支える

養護教諭として私が大切にしていることは、子どもたちの声に耳を傾け、心の内を整理し、子ども自身が答えを導きだし、安心・安全で健康に生活できるよう支えていくことです。

そのために、目の前にいる子どもたちに向き合い、できることを探りながら、職場の仲間・養護教諭の仲間とともに取り組んでいます。

ぜひ、子どもたちの心と体をともに支える仲間になりましょう。（中学校養護教諭）

「心地よい」学校づくりを目指して

事務職員の業務は多岐に渡りますが、私は教育環境の整備や業務改善の推進に注力しています。多くの人と協働し、その成果が子どもたちの学びや教職員の働きやすさにつながったと感じられることにやりがいや魅力を感じます。

事務職員の専門性を生かした取組によって、子どもたちにとっては「学び心地」、教職員にとっては「働き心地」の良い学校の実現につながります。誰にとっても「心地よい」学校づくりを目指してみませんか。

（小学校事務職員）

仕事で大切にしていること

用務員の仕事で大切にしていることは、生徒が安全に学校生活を送ることです。そのために、校地内整備や施設内修繕を円滑に進めることを考え、仕事に取り組んでいます。また、周りに目を配り、色々な変化に「気付く」ように心掛けています。それが良い方向に導いてくれた時、感動や自信、そして安心へとつながると思います。これからも安全を第一に仕事を続けていきたいと思います。

（中学校用務員）

教員という仕事は面白い

教員の仕事に境界はない。自分が趣味として楽しんでいることや、これまでの経験が思いがけず子どもたちの学びにつながることがある。自分の「好き」が子どもたちの成長につながることは、この仕事の大きな魅力だと思う。

もちろん、大変なこともある。それでも、子どもたちの成長を間近で感じ、時には自分自身も新たな発見をすることができる。そんな毎日があるからこそ、教員という仕事は面白い。

（小学校教諭）

生徒と過ごす時間は大切な宝物

3年間で中学生は心身ともに大きく成長します。多感な時期の生徒と向きあうことは正直大変なことも多いですが、日々の生活の中で着実に変化し、成長していく姿が見られます。そんな様子を間近で見られることが一番の喜びです。生徒と関わる一瞬一瞬が全て大切な時間であり、笑顔にさせるつもりがいつの間にかたくさんの笑顔と喜びをもらっている。教師とはそうした多くのやりがいと学びのある幸せな仕事だと感じています。

（中学校教諭）

受賞者のみなさんから素敵なメッセージをいただきました。教育に携わることへの魅力ややりがい、喜びがあふれており、子どもたちの成長はもちろんですが、自分自身の成長や生きがいにもつながっているように感じました。

子どもたちは「家族・学校・地域の宝物」、そして「未来の宝物」です。宝物である子どもたちの幸せ、そして自分の幸せのために、あなたの力を教育現場で活かしてみませんか！